

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	運営推進会議を通して、地域住民の参加・協力を得られるように取り組んでいるが、具体的協力体制の確認まで至っていない。	自然災害(地震など)時の地域住民の協力体制の確立は難しく、併設施設(三光病院等)との協力体制の確立を計る。	現在、訓練時には、併設施設(三光病院等)との協力体制は、とれているが、今後、災害マニュアル等にて併設施設(三光病院)との協力体制を確立していく。	6カ月
2	35	災害時に職員が動揺(パニックになる)する。	職員が利用者一人、ひとりの状態を踏まえて具体的避難策を検討し、慌てず避難誘導できるようにする。他施設からの応援時にも利用者の誘導方法が分かるようにする。	災害時のみならず、利用者の状態を各職員が把握しておくようにする。また、災害時に備えて、適切な判断・処置ができるよう頻回に訓練する。また、訓練前の情報交換も行う。	12カ月
3	6	利用者27名のうち、車椅子安全ベルト利用の利用者が2名いる。	身体拘束委員会で、なお一層安全を守る工夫や事例検討をし、拘束をなくすようにする。	・2名の車椅子安全ベルト使用者は、立位困難であり咄嗟の行動もあるため、使用中止は難しい。現在、生活時間帯の6時～21時まで拘束していたが、6時～13時と16時～20時に時間短縮する。その後は、様子を見て可能であれば時間短縮していく。 ・車椅子からの立ち上がり時にブザーがなる装置も試用してみる。	12カ月
					3カ月
					カ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。